

臨床腫瘍科

● スタッフ（平成29年10月1日現在）

診療科長 吉村 明修

● 診療科の特徴

分子生物学などの飛躍的な進歩により、専門的な知識が必要とされる抗がん薬が臨床導入されてきている。また、質の高いがん薬物療法を実践するためには、がん薬物療法、抗がん薬の基礎理論を理解し、臓器横断的に全体的な視野で捉えてがん診療を行うことが重要となってきた。このような状況に対応するために平成20年6月1日に臨床腫瘍科が設置された。

当科では、主として胸部悪性腫瘍（原発性肺がん、縦隔腫瘍）、消化器悪性腫瘍（膵がん、胆管がん、小腸がん、消化管間質腫瘍）を対象にがん薬物療法を中心とした診療を行っている。また、原発不明がんの診断と治療、多くの臓器のがん薬物療法についてのコンサルテーションおよびがん薬物療法を実施している。

● 診療体制と実績

当科では、入院診療は実施しておらず、外来診療のみを行っている。対象とする疾患は、胸部悪性腫瘍（原発性肺がん、縦隔腫瘍）、消化器悪性腫瘍（膵がん、胆管がん、小腸がん、消化管間質腫瘍）、原発不明がん、眼科領域の悪性腫瘍などである。また、良性呼吸器疾患として、間質性肺炎・肺線維症、慢性呼吸器感染症、気管支喘息の診療も行っている。

平成29年度の診療実績は、年間外来患者実数71例、年間外来初診患者数22例であった。外来患者疾患別割合は、呼吸器悪性腫瘍38%、消化器悪性腫瘍49%、その他悪性腫瘍6%、良性呼吸器疾患6%、その他1%であった（図1）。外来患者71例中42例（59%）にがん薬物療法が施行された。外来化学療法センターでのがん薬物療法（注射薬）の実施状況は、38例の悪性腫瘍患者に対し310コースが実施され、胸部悪性腫瘍14%、消化器悪性腫瘍86%の割合であった（図2）。また、4名の患者に4レジメンの経口抗がん薬（分子標的薬を含む）が投与された。

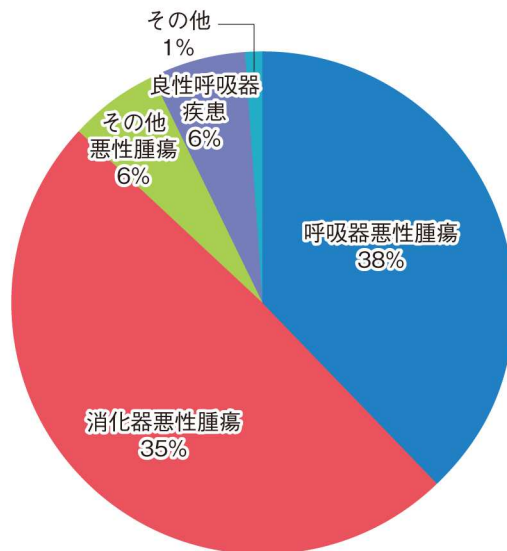


図1 平成29年度外来患者疾患別割合
(外来患者実数71名)

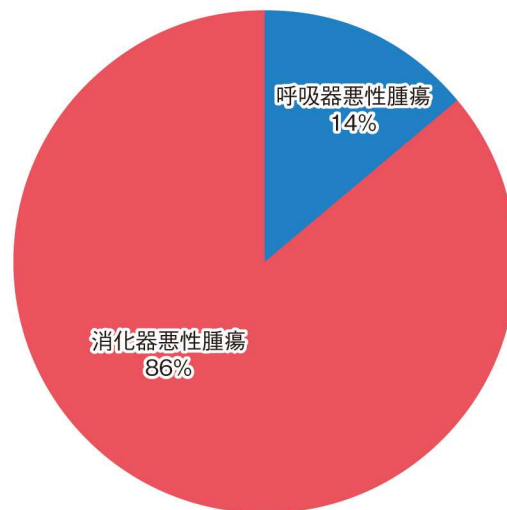


図2 平成29年度外来化学療法実施割合
(全310コース)